

# 概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 技術・家庭(家庭分野)部会

## テーマ

『生活を工夫し、創造する能力を育成し、子どもたちの実生活が豊かになる教材の研究』

## 提案概要

○実践に向けての課題意識

「住生活と自立」の学習は、実生活に個人差があること、個人のプライバシー配慮が必要なこと等が課題である。そこで絵本を教材として用いて、家族の安全を考えた室内環境の整え方と住まい方について学ぶこととした。

○実践の概要

- ・絵本のイラストから、家庭内事故につながるような危険箇所や課題を生徒が主体的に探していき、実践的・体験的な学習活動を取り入れ、学習意欲の向上につなげた。
- ・自らの住まいの中で、安全で快適な住まい方について課題を見つけ、その解決を目指して安全対策について工夫しながら考えをまとめた。
- ・個人学習・グループ学習・発表など、様々な学習形態を取り入れ、自分の考えを出し合うだけでなく、仲間の考えを聞くことから学びを深められるよう言語活動の充実を図った。

○成果と課題

- ・絵本を教材として用いたことは生徒の興味関心を惹き、自分たちの住生活に目を向けるきっかけになった。
- ・様々な形態のグループ学習を取り入れることで、言語活動が活発になり、主体的な学びが深まった。
- ・住まいの危険箇所や課題を見つけ安全対策の工夫をすることで、課題解決的な学習につながった。
- ・具体的な安全対策の学ばせ方、より効果的なグループ活動の方法、自らの実生活への実践にどうつなげていくのか等、課題としてあげられる。

## 質疑概要

(質疑応答)

- ・「住生活と自立」の学習前にアンケートを行ったのか、学習後に行ったのか?  
⇒市内中学校でアンケートを取ったが、学習前の学校も学習後の学校もあった。学習前と学習後にアンケートを取り、比較をしたかったができなかった。
- ・ワークシートに、具体性に欠ける安全対策の工夫の記述があった場合、どのように指導しているのか?  
安全対策グッズなどの具体的な名称を詳しく教える必要性についてどう考えるか?  
⇒具体性に欠ける安全対策の工夫が書かれているワークシートには、アドバイスを書き入れ、次時で取り上げたりしている。安全対策グッズの実物を見せることも有効であると考えたが、そこまではできなかった。
- ・家庭内の危険箇所について、全く問題点がないという生徒にはどのように声かけをしているのか?  
⇒机間指導中に声をかけ、現在、家庭で行っている安全対策について記述をするよう促した。机間指導はとても大切であると実感している。
- ・絵本を授業で使うことについてどのような許可を取っているのか?  
⇒授業で使用するという旨を事前に発行元に伝え、許可を取っている。しかし、あくまでも授業での使用許可ということなので、授業で使用したコピーも回収している。

(意見)

- ・交通事故は減少しているのに、家庭内事故は増加しているというデータを見せて、家庭内事故は気をつければ防げるという考えをもたせて授業をスタートさせている。
- ・地震対策について、家庭ではどのようなことをしているのか意見交換している。また、津波対策についても考えさせている。

- ・ユニバーサルデザインの視点から、だれもが暮らしやすい生活について考えさせている。
- ・世界の住まい、日本の住まい、地域の住まいについて取り上げ、特徴や暮らし方について考えさせている。

## 研究協議概要

3人から4人のグループを作り、ブレインストーミング方式で実施。

< 討議の柱：「教材」「学習方法」 >

○「住生活と自立」における教材について

- ・住宅等の広告を持ち寄り、テーマを設け、理想の家をグループで考えさせる。(多数)
- ・10年後、ひとり暮らしをした時の部屋のレイアウト等を考えさせた。(多数)
- ・修学旅行先(京都)の住まいの特徴を調べるという課題は自分の家との違いが分かりやすかった。
- ・様々な視覚的教材を使用すると生徒の興味関心を高められる。
- ・間取りを学習した後、「サザエさんの家に入ってみよう」という動画を振り返りで見た。
- ・インテリアデザイン、家具の配置、カラーコーディネートなどを工夫する授業は生徒が夢中になる。
- ・部屋の広さ、家具の大きさを教室の広さで考えさせると分かりやすい。
- ・立体模型で部屋の設計をさせたが、教材が高価で、作業にも時間がかかり、スペースもとる。
- ・生徒個々のプライバシーやこれまでの生活環境の違いがあるので、かなり配慮が必要である。
- ・被災した生徒がいることも想定して、配慮して授業を進める必要がある。

○「住生活と自立」における学習方法について

- ・グループ活動、ペアワーク、個人活動などを組み合わせて行う。グループ活動、ペアワークは互いの意見を聞きやすく、共感することで自分の考えを深めることができる。また、言語活動が活発になり、講義形式の授業で発言しない生徒も発言するようになる。(多数)
- ・防犯グッズ、防災グッズをグループで調べ、発表をする。
- ・「住生活と自立」の学習の後、「家族・家庭と子どもの成長」を学習すると、子どもにとってどのような危険があるのかを考えさせることができる。
- ・グループ学習は効果的だが、時間配分を考えて実施しないと時間が足りなくなる場合がある。
- ・キットなどを使わずに間取り図を書かせると、時間がかかりかかってしまう。
- ・「防災」に関しては「総合的な学習の時間」でも扱うので、内容について校内での情報交換が大切である。

## まとめ概要

- ・技術・家庭科はより良く生きるための教科である。今後、各教科で求められるアクティブ・ラーニング(課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)にスムーズに入りやすい教科であると言える。また、先生方が今まで大切にしてきた実践的・体験的な学習、言語活動についても引き続き授業実践の中で充実したものにしてほしい。限られた授業時間の中で、教材や学習活動等をいかに工夫するかが大切である。
- ・教科指導は学習指導要領の内容を踏まえ授業をデザインすることが大切だということを、本発表で改めて確認することができた。各分野の内容の取扱いにあるように、「実践的・体験的な学習活動の充実」については特に重要であり、その中で実習だけでなく、観察・実験なども含め、その特徴を生かした適切な学習活動を設定し、学習効果を高めることが大切である。また、「家庭や地域との連携」についても、家庭・地域社会における身近な課題を取り上げ、生活に生かす場面を工夫することが求められる。学習指導と評価については、今回の発表資料のように判断基準を明示した単元の評価計画を作成することが望ましい。今後は、次期の学習指導要領改訂の方向性等の内容も視野に入れながら授業改善に取り組み、生徒が家庭・社会の担い手としての意識をもち、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成につなげてほしい。